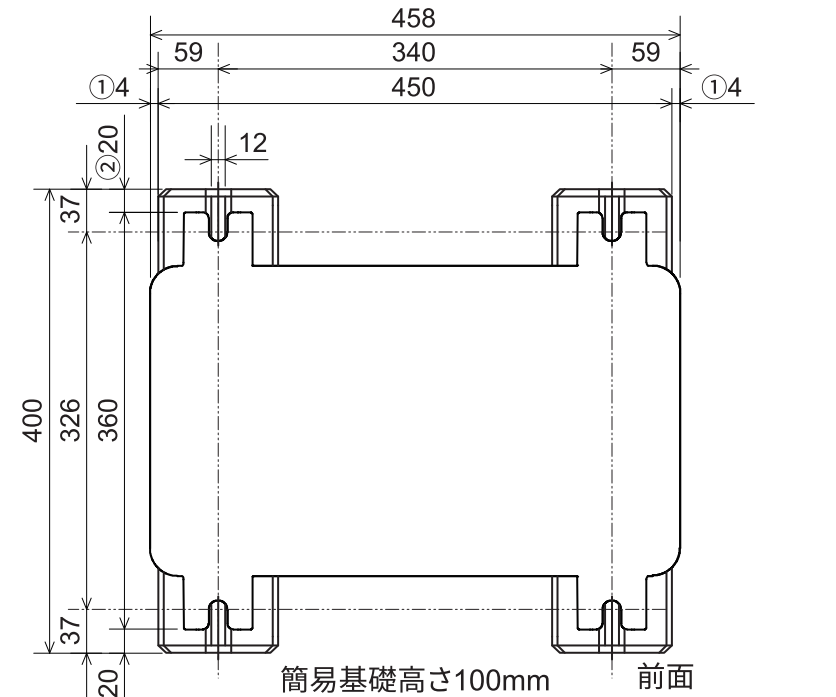


簡易基礎サイズについて

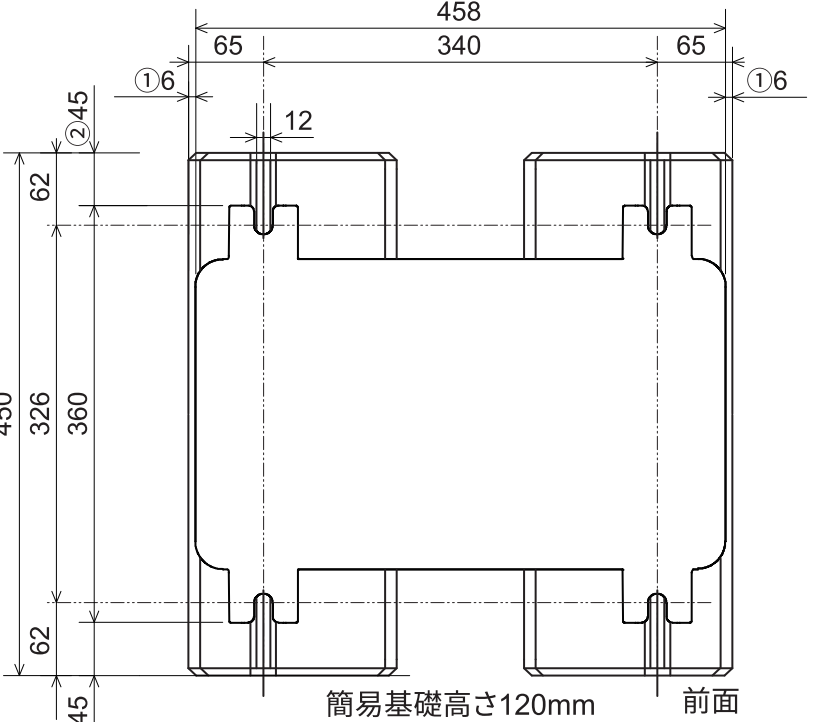
◆耐震クラスB対応施工、1階（地表）設置の場合

設計震度	製品名	メーカー	①凹み量	②はみ出し量
耐震クラスB 対応施工	ベースマン NBM400-12SH	株式会社 竹原電設	4mm	20mm



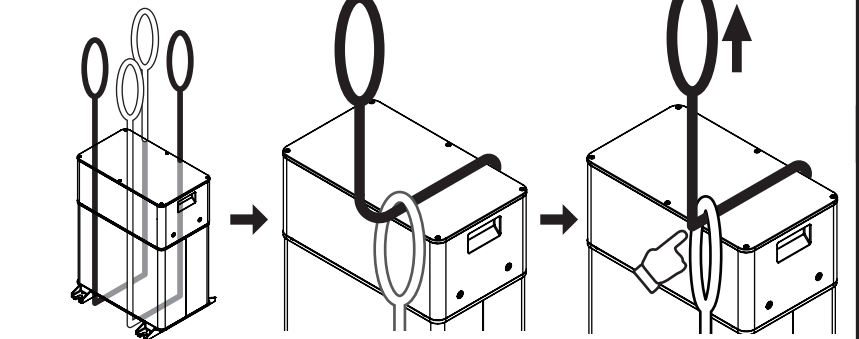
◆耐震クラスA対応施工、1階（地表）設置の場合

設計震度	製品名	メーカー	①はみ出し量	②はみ出し量
耐震クラスA 対応施工	エコ楽ブロック ER-450	株式会社 竹原電設	6mm	45mm



運搬手順

- 梱包を開梱してください。その後、スリングベルト（推奨品 ㈱テザック製 TBSE0.5TX3M）を下左図のように挿入してください。
- 下右図のように、各ベルトで輪通しをします。黒輪を白輪に通し、図のように白輪がパネルの横に位置した状態で黒輪を引っ張って、確実に固定してください。また、左右のベルトは互い違いになるように輪通しをおこなってください。



- 図 スリングベルトの挿入（※2本必要です。）
- 図 スリングベルトの輪通し
- 固定した後、黒輪を肩にかけます。また、以降の作業は、必ず、2人で実施してください。スリングベルトがすべらないことを確認してください。
 - 転倒に注意して持ち上げ、設置場所へ運搬してください。



蓄電池本体の固定

・①-③から選択してください。

注意

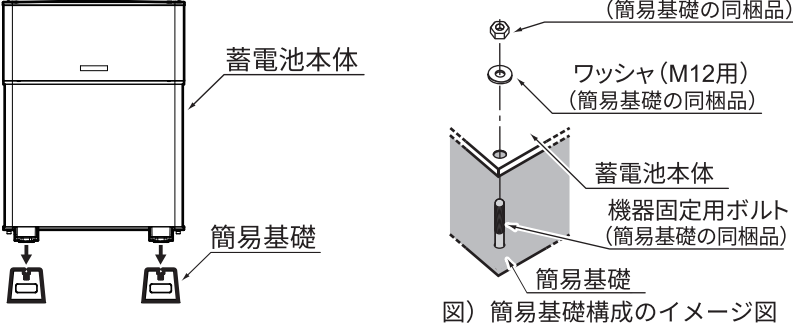


設置面を水平にしてください。

設置面が水平となっていない場合、蓄電池本体を設置できなかったり、設計通りの耐震強度が得られず、蓄電池本体が転倒したりする可能性があります。

① 屋外設置で簡易基礎を使う場合

- 本紙、もしくは、設置工事マニュアルから、簡易基礎を選定してください。
- 簡易基礎に固定します。図を参考に4箇所です固定してください。ナット（M12用）は、30±3N・m（276-337kgf・cm）のトルクで、確実に締め付けてください。



図）簡易基礎構成のイメージ図

② 屋外設置で本基礎を使う場合

- 本基礎の基礎表面からアンカーボルト凸量25-30mmで施工してください。また、ナットは標準的なものを利用し、30±3N・m（276-337kgf・cm）のトルクで、確実に締め付けてください。
- フランジ付きナット・ゆるみ止めナットなどを使う場合は、アンカーボルトの凸量を、適宜、調整してください。

図）本基礎構成のイメージ図

③ 屋内設置の場合

- 設置面が木材の場合、屋内設置用金具を使用することで屋内に設置することが可能です。
- 右図1) のように、仮置きしてください。
- 下図2) のように、付属の木ネジ、角座金を使用して、屋内設置用金具を設置面（床材）に固定してください。必要に応じて下穴をあけてください。
- 下図3) のように、屋内設置用金具の上に蓄電池本体を置き、4隅の位置合わせをしてください。
- 下図4) のように、屋内設置用金具に付属の袋ナット、および、L型座金、丸座金で固定します。20N・m（204kgf・cm）のトルクで、確実に締め付けてください。

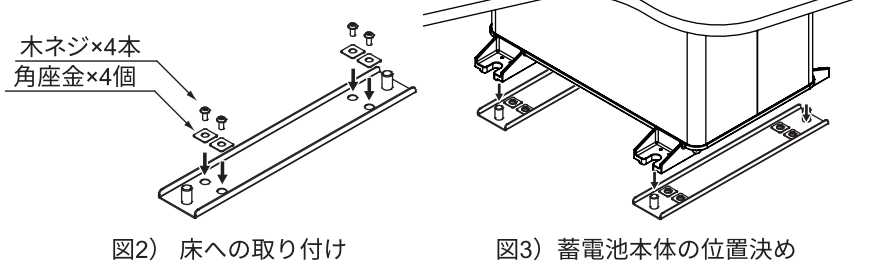


図2）床への取り付け

図3）蓄電池本体の位置決め

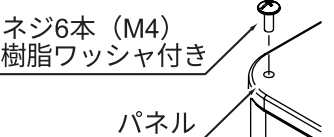
◆屋内設置用金具の同梱物

品名	員数
木ネジ（M6×20mm）	8個
角座金	8個
袋ナット（M10）	4個
L型座金	4個
丸座金	4個
設置説明書	1枚

図4）蓄電池本体の固定

パネルの取りはずし

- ネジ6本をゆるめ、パネルを取りはずしてください。その後、パネルを傷つけないように保管してください。



パネル

注意



ネジの取りはずしの際は、回転方向に注意してください。誤って高トルクをかけると、摩擦熱が生じ、ネジ部が膨張して焼き付けを起こす可能性があります。その場合パネルの取りはずし、取り付けができなくなるおそれがあります。

取りはずしたネジは保管してください。後で使用します。無くした場合、故障の原因となります。

ほこりや、過剰な水蒸気を入れないでください。故障の原因となります。

PF管の取り付け

- 本製品のPF管コネクタ取り付け口から、輸送用ゴムキャップを2個取りはずしてください。この輸送用ゴムキャップは、梱包材の一部であり、防水性能や、耐候性などはありません。

- 配線保護のために、PFD 管（PF 管の一種。内径28mm）、及び、それに対応した防水コネクタ（適合穴径φ34mm）を使用してください。コネクタによっては、水の浸入を防ぐために別売りの部材が必要となる場合があります。詳しくはPFD 管の商品仕様を確認ください。
- なお、屋内設置においては、PF 管コネクタは「防水タイプ」必須ではありません。
- 下図のようにPFD 管の最も下になる位置に、水抜き穴（φ5mm 程度）をあけるようにしてください。これらの処理は万一、PFD 管内に水が入ってしまった場合に、蓄電池本体への水の浸入を防止するために必要となります。また、屋内設置の場合、PF 管のループや水抜き穴は不要です。

注意

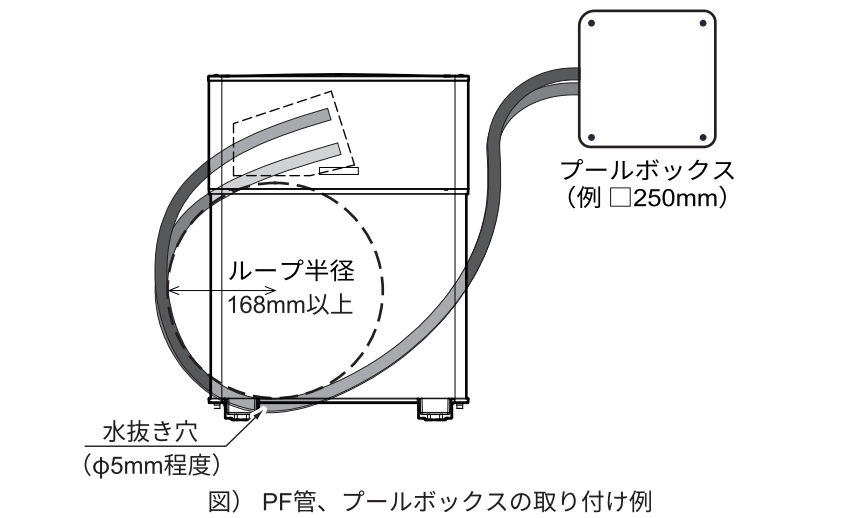


蓄電池本体からは必ず2つの配線穴を使用して、電力線（低圧配線）と通信線（弱電流線）を分けて配線をおこなってください。

電気設備技術基準を満たすために必要となります。故障のおそれがあります。

PF管の屈曲はその内側の半径（例 ループ半径）が管内径の6倍以上となるようにしてください。

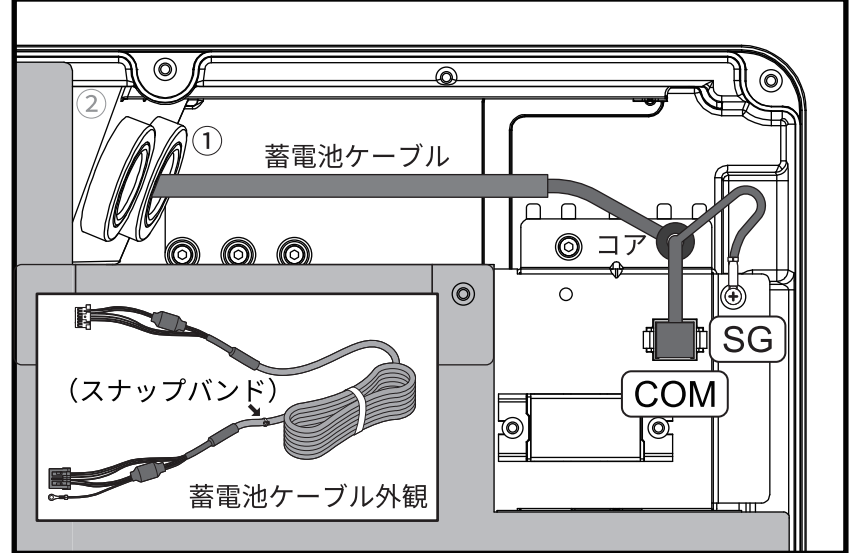
水浸入のおそれがあります。



図）PF管、プルボックスの取り付け例

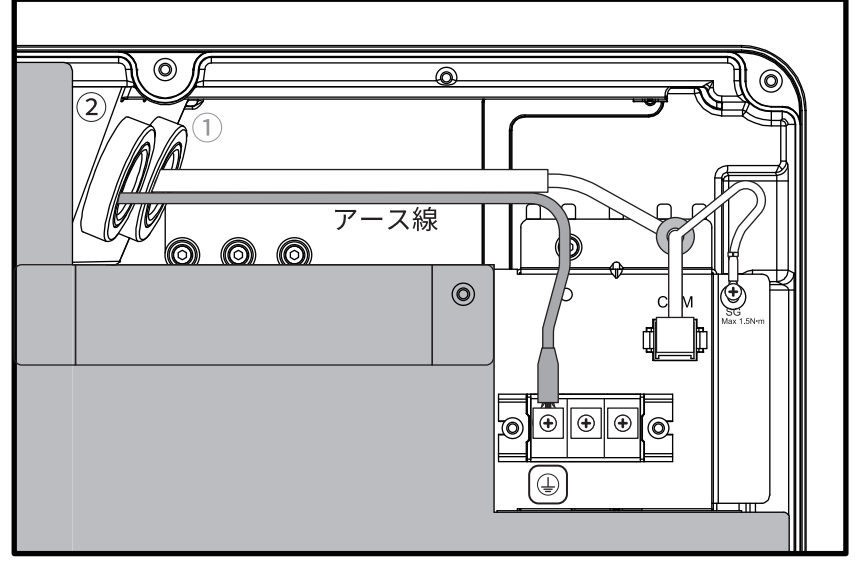
配線作業

- 配線作業の前に、蓄電池コントローラーのブレーカーがOFFであることを確認してください。
- ◆蓄電池ケーブル（通信線）の接続
- 蓄電池ケーブル（別売品）の施工をします。ケーブルは下側のPF管①を通してください。下図の「COM」でコネクタを接続してください。
- ケーブルの丸端子を「SG」の位置で固定してください。1.3-1.5N・m（13.3-15.3kgf・cm）のトルクで確実に締め付けてください。



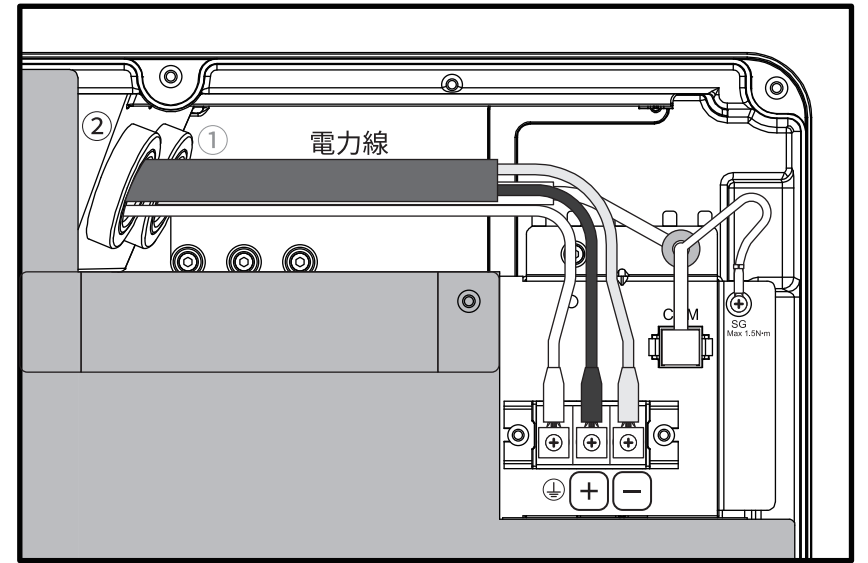
◆アース線の接続

- アース線（現地調達品）の施工をします。まず、線の先端を付属の圧着端子（RNB5.5-5）を使用して、端子加工処理をおこなってください。
- アース線の他方は、市販のアース棒にて個別に接地工事をしてください。（接地抵抗100Ω以下）
- 下図の位置で接続します。アース線は上側のPF管②を通してください。2.5N・m（25.5kgf・cm）のトルクで確実に締め付けてください。



◆電力線（DC）の接続

- 電力線（現地調達品）の施工をします。まず、線の先端を付属の圧着端子（RNBS8-5）を使用して、端子加工処理をおこなってください。
- 下図のように接続します。電力線は上側のPF管②を通してください。2.5N・m（25.5kgf・cm）のトルクで確実に締め付けてください。



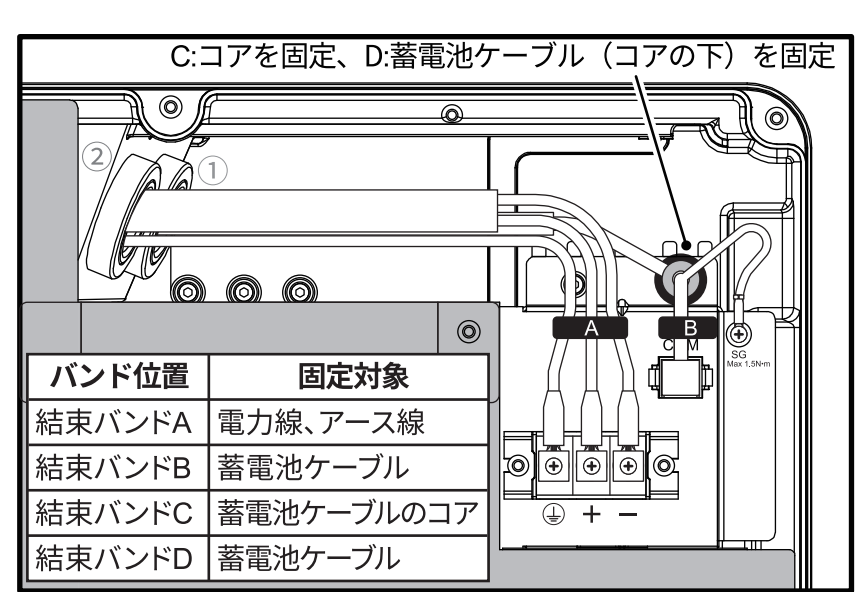
◆蓄電池用コンバータ側の接続

- 以下は、蓄電池用コンバータ（JH-WD2111）1台目の例となります。他のモデルは、各製品の設置工事マニュアルを確認してください。
- 電力線（現地調達品）の施工をします。線の先端を蓄電池用コンバータ付属の圧着端子（8mm²用）を使用して、端子加工処理をおこなってください。その後、2.9-3.0N・m（29.6-30.6kgf・cm）のトルクで確実に締め付けてください。
- 蓄電池ケーブル（別売品）の施工をします。右図の位置でコネクタを接続してください。
- 蓄電池本体を2台接続する場合は、設置工事マニュアルを確認してください。



各ケーブルの固定

- 結束バンド（4本）で固定します。図のA,B,C,Dで、各ケーブル・コアを固定してください。（この固定は、電力線・アース線と、通信線の素線の接触防止のために必要です。）



結線状態の確認

- 上図を参考に、正しく接続されていることを確認してください。
- また、端子台全面に圧着端子が密着していること、引っ張ったり曲げたりしても圧着端子が動かないことを確認してください。締め付け完了後は、必ず増し締めをおこなってください。
- 必ずPF 管2個を使用して、ケーブルを分けて通してください。ノイズによる機器の誤動作を防止し、電気設備技術基準を満たすために必要です。



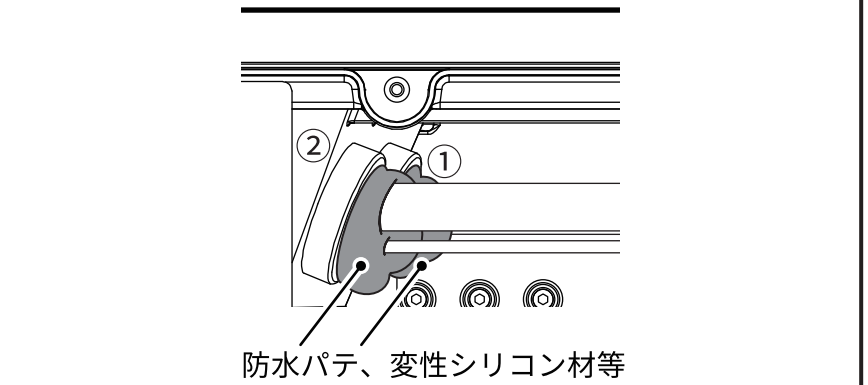
ケーブルが抜けしないことを確認してください。動作不良や故障の原因となるおそれがあります。

配線部のパテ埋め

- 配線接続終了後、蓄電池本体への湿気の浸入を防ぐために、PF 管用コネクタと配線の隙間を防水パテ、変性シリコン材等で埋めて、蓄電池本体を密閉してください。

警告

- 蓄電池本体の配線口は、内部への水分の浸入を防ぐため、ケーブルとケーブルの間も含めて隙間なく防水パテ、変性シリコン材等（※）で塞いでください。
- 結露発生の原因となる室内の温かく湿った空気や、外部からの水分、腐食性物質が蓄電池本体内部に入ると内部の部品が腐食、短絡し、感電・発火・発煙・機能障害に至るおそれがあります。
- ※開口部を埋める部材には、低分子シロキサンを含まない部材、あるいは、低分子シロキサン低減タイプの部材を使用してください。
- 水浸入のおそれがあります。



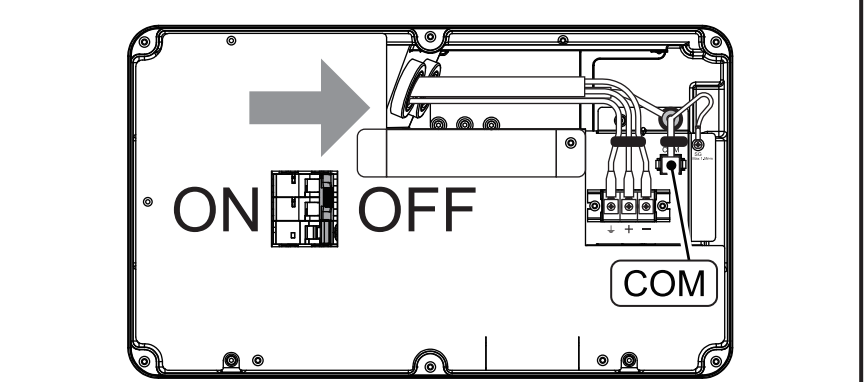
設置工事後の処理

必ずご確認願います

- ◆設置工事後、連系開始日まで1週間以上期間がある場合の処置（設置工事が完了せずに一旦作業を終了する場合を含む）
- ・以下を実施してください。

注意

- 蓄電池システムを停止するために、蓄電池本体で以下の作業をおこなってください。
- ①蓄電池コントローラーのブレーカーをOFFであることを確認する。
- ②「COM」と記されたコネクタをはずしてください。
- ①②を行わずに長時間放置した場合、蓄電池モジュールが過放電になり動作しなくなります（復旧できません）。



- ・パネルを閉める前に、以下を再確認してください。
- A) 蓄電池本体内部に腐食、汚れ、水の浸入がないこと。
- B) 誤配線、電線・端子の腐食、変形、損傷がないこと。
- C) 各ケーブルの被覆が端子台にかみ込んでいないこと。
- D) 各ケーブルがパネルを閉める際にかみ込んでいないこと。
- E) パネル裏面のパッキンにゴミ、埃等が付着していないこと。
- F) 電線をそのまま端子台へ固定していないこと。（圧着端子の使用は必須です。）
- G) PF管の取り付け、配線部のパテ埋めが確実にされていること。
- H) パネルが隙間なく確実に閉じることができること。

パネルの取り付け

- ・下図のように、6カ所のネジでパネルを取り付けてください。ネジは、1.5N・m（15.3kgf・cm）のトルクで確実に締め付けてください。締め付け過ぎの場合は、ネジを破損するおそれがあります。

